



看護局いきいき通信



令和3年1月発行(年3回発行)

編集委員：田中 福森 川淵

発行責任者：田中

新年あけましておめでとうございます。またコロナ禍での激務、皆様お疲れ様です。この状況が一日でも早く終息へ向かいますこと、皆様のご健康をお祈り申し上げます。今後も引き続き看護局の取り組みや出来事などを掲載していきますので、今年度もどうぞ宜しくお願いします^^



小児レスパイトを始めて

4月1日より小児重症心身障碍児のレスパイト入院に向けて試験入院が始まりました。昨年より、川口副院長、地域医療連携センターの皆さんと連携し、安全な受け入れと安心して療養できるために必要なことは何かを検討して準備を進めてきました。

初めての外来受診で子ども達やご家族の方とお会いするときの緊張は今も覚えています。

臨床工学技士の方々と連携し在宅人工呼吸器の勉強会を実施し、情報共有カンファレンスを重ね今年度4名の試験入院と1名のレスパイト入院を受け入れることができました。まだ始まったばかりですが、一人一人の子ども達に寄り添い自宅と同じように過ごし、ご家族の皆様安心して頂けるよう療養の様子や成長の記録をこれからも見守り続けていきたいと思っております。

3A 病棟看護師



私たちのWLB



2B 病棟 Mさんにご趣味の

『ハイキング』についてインタビューしました！

今年はコロナの影響で行動範囲も制限がかかり大好きな旅行は断念。こんな状況だからこそ、感染に影響しないであろうハイキングを積極的に行いました。大自然に触れ、人もいない山道を黙々と歩いていると気分がすっきりし、ほどよい運動と美しい景色に囲まれ、最高です。ハイキングだけでなく、ウォーキングも好きなので、気づけば半日経過したり。世の中が変容している今、目に見えないものと闘いながらも、それぞれの楽しみをみつけていけたらと思います。

2B 病棟助産師



お孫さんが誕生されました

私事ですが、今年度6月に初孫が生まれました
助産師になって約30年・・・

私の手で初孫を取り上げられたことは、助産師冥利に尽きます
今は、孫の成長に癒される毎日です 副看護局長

私が着た産着で、写真撮影しました！



心不全チームの取り組み

日本循環器学会のガイドラインで「心不全とは「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こりだんだん悪くなり生命を縮める病気」と定義されています。心不全の治療ではなるべく病気の悪化を繰り返し徐々に病気が進んでいきます。心不全の治療ではなるべく病気の悪化を抑え、病気のコントロールしながら上手に付き合っていくことが大切です。

また、高齢の心不全患者が増え「心不全パンデミック」となる可能性があるため、入院患者さんを対象とした心不全の方々や治療や生活を支援するために心不全プロジェクトを立ち上げ、週1回の心不全多職種カンファレンスを行っています。カンファレンスでは医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、MSWなどの多職種で病態や治療状況の把握、情報の共有を行っています。また心不全の治療で重要な薬物療法、食事療法、運動療法、日々の体調管理や疾患だけでなく生活や社会的支援も含めて「心不全再入院を防ぐため」方針を話し合っています。高齢者が多く身体機能や認知機能の低下の患者さんも多いため、患者さん本人だけでなく家族にも療養指導を行い、時には地域のケアマネージャーに情報共有を行い、再入院を予防できる様に取り組んでいます。

4B 病棟看護師

新人看護職員 ローテーション研修

関連する部署を見学し、患者がどのような処置をされているか一連の流れを学ぶことができました。いままではオペや検査への申し送りまででしたが、その後を実際に見学することで患者の苦痛や不安、看護師それぞれの配慮や声掛けについて知ることができました。病棟との申し送りでは、患者の不安など心理面について共有することの重要性を改めて学びました。今回の学びから病棟で行かせることを考え、これからも頑張りたいです。

2B 病棟助産師



ローテーション研修で多くのこと実際に体験しながら学ぶことができました。外来での看護を間近でみれたことでより継続した看護の大切さを連携されている姿を通して感じることができました。入院時から退院を見据えた看護の必要性も改めて体感できたと思います。

今後は、入院中の患者さんとその家族が少しでも不安なく安心して入院生活を送り、退院できるように看護を行っていききたいと思います。

3A 病棟看護師

